

東日本大震災復興支援プロジェクト

第24回活動報告



J A 女性部・北支部のみなさんが現地視察に訪れました。

新人職員が初めての被災地に刺激。

J A 女性部（北支部）が現地を視察しました。

今年度3回目（通算24回目）となる活動を6月23日、職員5人が参加して、宮城県東松島市で実施しました。

この日は、大津波の被害を繰り返さないようにと、大震災後に地元住民とボランティアの手によって作られた避難山道の整備などに取り組み、今年4月に入組した18歳から22歳の新人職員が中心となって草刈作業などで汗を流しました。

参加した農業機械課の亀井貴文さんは「被災者の方の体験談にとても心を打たれました。今度は草刈機を持参するなどして得意分野で現地に貢献したい」と感想を話していました。

2年前の第1回活動時に、野菜の苗提供や畑のがれき清掃を手伝って以来縁のある地元の方とも再会することができ「あの頃（2年前の6月）は精神的に最悪の状況で、いつ死のうかということばかり考えていたけど、J A の若者らが無邪気に畑のがれきを掃除してくれたり、野菜の苗を植えてくれたりしたこと

がきっかけで生きてみようと思うことができた」「今被災地に必要なのは、心の支援。継続してたまに顔を出してくれることは何よりの支援です」といった言葉をいただきました。

一方、この日はJ A 女性部・北支部の総勢30名が現地視察に訪れ、大津波で町がまるごと流された沿岸部や慰霊碑などを見て回ったほか、地元で高齢者介護施設などを営むNPO法人代表の伊藤壽美子さんによる講話会を実施しました。大津波襲来時の町の様子や壮絶な復旧作業の様子、現在までの復興の取り組みなどを当時の写真とともに振り返り、改めて東日本大震災への思いを新たにしていました。プロジェクト活動は今年度を最終年度とし、宮城県と福島県で計5回程度実施する予定です。

【参加者】鈴木大亮（総合戦略室）、阿部亮矢（経理システム課）、星見英朝（生活課）、亀井貴文（農業機械課、大川文也（大泉支所）

東日本大震災復興支援プロジェクト

第24回活動報告②

